

令和6年度第1回太宰府市幼保小連携部会 会議録（要約）

日 時：令和7年3月3日（月）午後6時00分～午後7時27分

場 所：太宰府市庁舎1階201会議室

出席委員：岩渕部会長、河野委員、小原委員、松大路委員（4名）

市関係出席者：鍋島学校教育課長、比嘉主任主事、伊藤保育児童課長
（事務局）竹浦係長、堤係長

1. 自己紹介

2. 幼保小の架け橋プログラムとは（部会長より説明）

A：小学校に求めすぎても時間がないというのがあるのではないかと。気になる児童を小学校に報告することが目的になっていないかというジレンマがある。

B：児童の困り感などマイナスのことをよく聞くが、そんな困り感を発した時に、園ではどんな対応をされていて、その子がうまく活動に戻れるのか

得意なところからアプローチすることが、より架け橋プログラムに合致する内容で大事なところ。

確かに時間はないが、生活科とかで生み出すことは可能だと思う。知恵を働かせることがこの部会の大事なことだと思う。

C：令和の学校教育の個別最適・協働的な学びということが出てきていて、子どもたち1人1人多様なので、特性も違うし興味関心も違うし、これまでの学びの状況も違うから、子ども子どもに応じた最適な学習をどうにか提供できないか。ということだと思う。

実際どんな学び方をしているのかっていう連携はほとんどなされてない状況が一番の課題。

幼稚園、保育園は感じるだったりとか、味わうだったりそういうのを大事にされている段階。小学校1、2年生の生活科については、感じるとか味わうっていうのをすごく大事にしている教科、この生活科というのは一つの架け橋プログラムの形としてあるのかなと思う。

今、小学校でどんなことを大事にして、そこから繋げようとしているのかとか、幼稚園でどんな学び方をしているのか、各保育園でどんな学び方をしているのか、小学校でどんな学び方をしようとしているのか、というここの共有がなされるのがすごく大事な視点。

D：現場の先生同士が一緒に話し合っ、お互い高め合っっていくというのが、すごく大事になってくる

どういふうに国全体が目指していくのか、そして太宰府市が何を指したいのかといふところを作っていく。

実際の小学校の先生とか実際の保育園の先生とか、みんなで共有しながら太宰府版の架け橋どういふうにやっしていこうかなといふのを、作っなければと思ふ。

幼保小の先生が気軽に話し合える環境を構築することが大事になってくるのかもしれない。

E：本当に世の中が社会の変化が激しい。何が良くて何が悪いのか、どこで情報をとっていいかがわからない。

家庭と小学校を繋げるような人がいたら本当に一番いいんだらうと思ふ。親が行動に移すといふことを、絶対にしないといけないし、親が親同士連携をして本当にいふんな現状とかさういふのは聞っだけじゃなくて、見てそれを繰り返すことによっ、少しずつよくなっっていく。

教育の基本は家庭にあるので、もちろん学校、保育園など当然さうなんですけど、一つか何かさういふところにやっば原点回帰、今すべきことじゃないかなといふのをすごく思っている。

C：どういふ生活を保育園幼稚園でしてきたかによっ、だいぶ違ふ。

ある程度それを見た上で、小学校の方でも支援の在り方、ここすごく大事。本当に全然、出身の幼稚園保育園によっだいぶ違ふ部分もあると思ふ。

D：それぞれ子どもたちの経験は違ふか、学びの力といふのはある程度、やり方は違ってもきちんと伸ばしていかないといけないものといふのは、ちゃんと示されていふんですよね。保育所保育指針といふのをきちんと学んでいふかといふところで、ある程度判断していくのがいいのかなと思ふ。

C：方法論を一致させるのは無理。

だから少なくともさういふ姿に育っしてほしいっ、各園と各小学校の実態にっじて共通理解を図ることがまずないといけない。

要は目指す方向は同じなんだっという到達点をどれだけ一致させられるかといふこと。

架け橋として、「太宰府市ではここを目指してやってるんだよ」といふのがきちっとあるといふことがまず大事。ある程度共通理解を図れたりとか、連携を図れる場っというのが設定されてるかどうか。

その中でどういうふうに繋げていくかなっていう、そことセットで常に考えないといけない。

D：サイズ感が大事。学区ごとにするのか、それとも何にするのか、小学校区域ごとにするのか、中学校区域ごとにするのか、だれを登場人物にしているのか。

C：実働できるレベルから仕方を考えていかないと理念だけで終わっちゃう話になりかねないので、そこあたりをちょっと具体的に検討していくのが大事なこと。

D：特別支援というより、それぞれの教育方針、お互いの情報交換、目線あわせができるかっていうようになってくると思うけれども、まさにサイズ感が大事でロジをどうするのか、先生にさせるのか、園にさせるのかというのも、大事になってくる

C：例えば小学校から幼稚園保育園に行っちゃってちょっと遊びを提供する。あるいは小学校に保育園幼稚園から来てもらって、学校を案内するというようなカリキュラムが総合的な学習のカリキュラムとしてあって、イベントじゃなくて、小学校の子どもたちにとってもその学びの中の一つのものとしてあるんですけど、これが本当に理想的。

学びの中にきちんと位置付いているっていうのはすごく大事。

事務局：研修とか検討する場所とか、カリキュラムの話も出てきているので、次の議題のフェーズの話をしたほうがいいかなと。その次の「今後について」にも関係してくるかなと思う。

D：架け橋のプログラムの進行フェーズというのが、まず第一に基盤づくりというところから、検討・開発、実施・検証、改善・発展サイクルの定着というのがある。

来年度1年をかけてどういう枠組みでどうやっていくか。

フェーズ3、実施・検証というところは、全部のところで作るのか、それともモデル地区っていうところを作ってみるのか、来年度、次回以降にみんな決めていけたらと思う。

その後は、PDCAをやって、カリキュラムを作る。そのカリキュラムづくりを9人でやっていくというのは、あんまり現実的ではない。実施・検証というところのカリキュラムをどうやっていくか先生たちの意見が欠かせない。

今後についてご提案ですが、学びの基礎を、皆さんと共有したい。先行事例を一緒に見て検討したい。

まず津和野町という架け橋のモデル地区になったところのプログラムを見ても
らいたい。

また、それぞれ架け橋のキーポイントになりそうなものを調べていただく。

事務局：次回は、開催時期は5月くらい。

令和の日本型教育を小学校の方、生活・遊び・学びの一体性を幼稚園、保育
園の方、育成プランについてを学校教育課に説明していただく。

津和野町の動画を見てきていただくという2つをお願いします。

3月19日の子ども・子育て会議にて部会長より、本日の部会の報告をして
いただく。